

2011年1月14日

株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/><http://www.fcr.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

医療機器とキーデバイスの世界市場を調査

2015年市場予測

医療機器	X線CT	2009年比	31%増の4,863億円
	内視鏡	同	11%増の1,787億円
キーデバイス	医療用半導体	同	73%増の4,221億円

マーケティング&コンサルテーションの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、多岐にわたる医療機器の中からエレクトロニクス技術革新の著しい画像診断装置や内視鏡/患者モニター機器、分析装置など、それらに搭載されるキーデバイスの世界市場を調査した。その結果を報告書「先端医療機器とキーデバイス市場の現状と将来展望」にまとめた。

この報告書では、主要な医療機器としてX線CTやMRI、X線診断装置などの画像診断装置、内視鏡や心電計、脳波計などの内視鏡/患者モニター機器他、生化学自動分析装置(自動化学分析装置)や免疫学的検査装置(化学発光免疫測定装置)などの分析装置(検体検査装置)の合計20品目と、医療機器のキーデバイス14品目の市場を分析した。

<調査結果の概要>

1. 主要医療機器20品目の世界市場

2010年の画像診断装置、内視鏡/患者モニター機器他、分析装置の計20品目の世界市場は3兆2,396億円と見込まれる。日本市場の伸びを牽引したのは画像診断装置である。2010年の診療報酬改定でデジタル撮影料が加算されたことから買い替えが進んだ。2011年も同様に市場は拡大すると予測される。尚、その後は緩やかな成長になると見られる。

海外では中国や東南アジア、ブラジルなどの新興国では新規需要が旺盛であり、様々な機器に対するニーズがある。今後もこれら新興国が市場の牽引役になることは間違いない。欧米では、日本と同様に普及が概ね完了しているが、デジタル化や自動化の進展で買い替え需要が堅調である。

	2010年見込	2009年比	2015年予測	2009年比
画像診断装置	2兆5,200億円	102.9%	2兆9,908億円	122.1%
内視鏡/患者モニター機器他	4,718億円	98.3%	5,488億円	114.3%
分析装置	2,478億円	102.7%	2,956億円	122.6%
合計	3兆2,396億円	102.2%	3兆8,351億円	120.9%

億円単位で四捨五入しているため合計と合わない年があります。

医療画像診断装置

医療画像診断装置は、日本をはじめ先進諸国で普及率が高いが、大多数の医療施設が導入しているのは普及機クラスと見られる。買い替え需要が中心ではあるものの、ハイエンド機への更新で世界市場は緩やかな拡大が予測される。また、新興国において安価な一般X線検査装置(アナログ撮影)への需要が高まっており、この伸びが市場拡大に寄与すると見られる。

X線CT

2010年見込	2009年比	2015年予測	2009年比
4,002億円	107.8%	4,863億円	131.0%

2010年の世界市場は、前年比7.8%増の4,002億円と見込まれる。日本では2010年の診療報酬改定で16スライス以上のマルチスライス撮影が加算されたため、16スライス以上の撮影が可能な機種への

買い替え需要が高まっている。海外では、欧州がユーロショックを引きずっているが、アジアで需要が拡大している。

日本は16スライス以上の撮影が可能な機種への買い替え需要が今後2～3年期待されるが、買い替えサイクルも長期化しておりその後市場は横ばいと予測される。海外ではアジアでの需要が期待される他、北米で予防医療を重視する政策から市場が活発になる可能性がある。

内視鏡/患者モニター機器他

内視鏡は、新興国向けの新規需要が期待されることから販売増が期待できる。一方で、現地メーカーの安価な製品が増加している。

心電計は新興国を中心に需要増が期待できるが、中国メーカー等が安価な製品を投入してきていることから世界市場は縮小すると予測される。パルスオキシメーターは日本市場、世界市場とも簡易型ポータブルタイプが市場を牽引すると予測される。

AED(自動体外式除細動器)は日本市場では買い替え需要が中心であるが、世界市場では新興国の需要に支えられ堅調に伸びると予測される。

内視鏡

2010年見込	2009年比	2015年予測	2009年比
1,670億円	103.7%	1,787億円	110.9%

2010年の世界市場は、前年比3.7%増の1,670億円と見込まれる。日本は2010年の診療報酬改定で大腸内視鏡手術の一部がプラス改定となったため需要が拡大した。また、海外では中国、東南アジア等で需要が著しく伸び、欧米で不況からの回復が見られた。

今後日本は、単価の下落が進んでいることやカプセル内視鏡の登場などにより伸びは期待できない。しかし、それを上回る中国、東南アジア等新興国の新規需要が期待されることから市場は拡大すると予測される。但し、現地メーカーの参入やそれらのメーカーが投入するローエンド機種が増加しており、大手メーカーが投入している機種の価格下落を誘発している。そのため市場は数量ベースでは前年比3～4%増となるが、金額ベースでは同1～2%程度の増加に留まると予測される。

分析装置

欧米や日本では普及率が高く、飽和状態となっているため買い替え需要が中心である。今後は中国をはじめ、ブラジルやロシア、東南アジアで新規需要が期待される。ローエンド機種への需要が高いが、中国など一部の地域では大病院向けハイエンド機種への需要もある。

免疫学的検査装置(化学発光免疫測定装置)

2010年見込	2009年比	2015年予測	2009年比
509億円	103.9%	640億円	130.6%

2010年の世界市場は、前年比3.9%増の509億円と見込まれる。先進諸国では普及が一巡しており買い替え需要が中心となるが、新興国では中国を中心に新規需要の増加が続いている。

2. キーデバイス/コンポーネント14品目の世界市場

2010年見込	2009年比	2015年予測	2009年比
1兆5,114億円	104.0%	1兆8,681億円	128.6%

2010年のキーデバイス/コンポーネント14品目の世界市場は1兆5,114億円と見込まれる。最も市場規模の大きいのがバイオセンサである。現在はグルコースセンサがほぼ100%である。今後はセンシングニーズの多様化及び感染症の初期段階での自己診断用途の立ち上がり等によって拡大すると見られる。バイオセンサに次ぐ市場規模が医療用半導体である。多チャンネル対応などにより高価格製品のニーズも増加している。各種医療機器の伸びに連動して拡大していく。3番目に市場規模が大きいのが超音波プローブ(超音波診断装置で超音波ビームを送受信する探触子)である。新興国向け製品への需要と買い替えが底支え、安定的に成長している。

その他では、X線検出器が有望である。各種X線診断装置においてFPD化が進んでおり、切り替わりが起きてい

るためである。

医療用半導体

2010年見込	2009年比	2015年予測	2009年比
2,744億円	112.5%	4,221億円	173.0%

医療用半導体には、コンバータ製品、アンプ製品、パワーマネジメント製品、RF製品、DSP製品、MEMS製品（加速度センサ、近接センサ、圧力センサ、温度センサ等）として様々なラインアップが製品化されている。また、既存ラインアップからも多くの半導体が医療機器に搭載されている。

市場は2008年末から2009年に不況による落込みがみられたが、2010年は前年比12.5%増の2,744億円と見込まれる。医療・ヘルスケア分野は高齢化と新興国における医療産業の拡大、パーソナルヘルスケア需要の拡大などから継続的に年率10%程度の市場拡大が期待されており、これに伴い医療用半導体の市場も拡大すると予測される。

以上

<調査対象>

医療機器	画像診断装置	MRI、CT、PET、一般X線撮影装置、外科用X線撮影装置、X線血管撮影装置、X線透視撮影装置、超音波診断装置、OCT、医療/獣医用サーモグラフィ装置
	内視鏡/患者モニター機器他	内視鏡、カプセル内視鏡、心電計、AED、パルスオキシメーター、脳波計
	分析装置	生化学自動分析装置、血液学的検査装置、免疫学的検査装置、尿検査装置
デバイス/コンポーネント	MRI用RFコイルユニット、MRI用磁石、シンチレータ結晶、光電子増倍管、X線管、X線検出器、超音波プローブ、圧電素子、医療用半導体、イメージセンサ、微小光学部品、バイオセンサ、医療用ディスプレイ、位置決め装置	

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員による参入企業・関連団体などへの直接面接取材を基本とし、関連文献、社内データベースも活用

<調査期間>

2010年10月～11月

資料タイトル	「先端医療機器とキーデバイス市場の現状と将来展望」
体裁	: A4判 259頁
価格	: 97,000円(税込み101,850円) CD-ROM付価格 117,000円(税込み122,850円)
調査・編集	: 富士キメラ総研 研究開発本部 第一研究開発部門 TEL:03-3664-5815 FAX:03-3661-5134
発行所	: 株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ http://www.fcr.co.jp/